

2021年5月21日

2021年日本建築学会賞(業績)復興復旧特別賞を受賞

工学研究科 建築学専攻

槻橋 修

【概要】

- ・2021年日本建築学会賞(業績)復興復旧特別賞
「気仙沼市唐桑町大沢地区における復興の取り組み」
受賞グループ：気仙沼みらい計画大沢チーム、大沢地区防災集団移転促進事業期成同盟会(現：大沢まちづくり協議会)
- ・復興復興特別賞は特定非常災害特別措置法に基づく特定非常災害が対象である。受賞業績は5年に1回公募する方針で、今回は候補業績5件から4件が選定され、東日本大震災の被災地復興に取り組んだ個人や団体の業績が評価された。
- ・本業績は、東日本大震災の被災地である気仙沼市唐桑町大沢地区を対象として、5つの大学に所属する教員(鈴木伸治、槻橋修、竹内昌義、西澤高男、渡部桂、友渕 貴之)及び学生から構成される「気仙沼みらい計画大沢チーム」(2011年10月結成)と地域住民が協働し、高台への集団移転事業、街全体の復興まちづくり、及び地域コミュニティ再生までの多様な課題を解決するため9年に亘り継続的に取り組まれている震災復興の代表的な協働事例である。

【チーム構成】

- ・気仙沼みらい計画大沢チーム
鈴木伸治(横浜市立大学)
槻橋 修(神戸大学)
竹内昌義、西澤高男、渡部桂(東北芸術工科大学)
友渕貴之(宮城大学)
武庫川女子大学学生有志

【活動状況等】

- ・主な活動としては、高台への集団移転計画に関して、住民の合意形成と行政との調整を繰り返しながら進めていく「大沢みらい集会」(2011年10月開始)の開催などが挙げられる。専門家チームとしての知識を生かした提案を行い、一般的には情報格差により住民意見の

適切な反映が難しい集団移転において、専門家が伴走しながら住民が自立した移転事業を進められる協働体制案を提示した点は高く評価できる。街全体での復興まちづくりに関しても「大沢まちづくり会議」(2012年8月開始)を開催し、浸水区域も含めた土地利用の検討や地区全体としての復興について自治会、住民、行政との橋渡し役を担い、住民の合意形成を取りながら街の総合的な復興計画を協働で推進している。地域住民との相互信頼関係に基づいた長期のまちづくり協働体制のモデルとしても評価された。

- もうひとつの特徴は、地域コミュニティの維持及び新しい人間関係の構築に関する大沢チームの学生によるソフト面での支援活動である。①4ヶ所の仮設住宅や他地域の避難所に分かれた被災住民が格差なく情報共有できるように行政の復興計画や各種集会での決定事項を伝える「大沢復興ニュース」(2013年11月開始)の発行、②地域住民のコミュニティ拠点となる「大沢カフェ」(2013年12月)の建設、③子供たち、住民間、大沢チーム学生と住民との新しいコミュニティを形成する「大沢カエル教室」(2014年6月開始)の開催など、多様な活動を学生中心で企画・運営し、地域住民との強固な相互信頼関係を構築した。9学年、150名を超える学生が参加した活動は現在も継続しており、被災地の再生という生きた社会活動を通して多くの学生に対する教育的成果を達成した。

【参考】

- *1 「2021年日本建築学会賞(業績)復旧復興特別賞」を受賞しました 一気仙沼市唐桑町大沢地区における復興の取り組み―

https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2021_04_19_02.html

- *2 日本建築学会ホームページ

https://www.aij.or.jp/images/prize/2021/pdf/2_4award_002.pdf

【問合せ先】

神戸大学 大学院工学研究科 建築学専攻

准教授 槻橋 修

TEL: 090-8043-8606

E-Mail: tsuki@port.kobe-u.ac.jp